



持続血糖測定システムについて

内分泌代謝内科 家城 恭彦



糖尿病患者の血糖管理状況は、主に血糖値とHbA1cを指標に把握しています。自己血糖測定(SMBG)は血糖値を「点」で測定するものですから、当然ながら血糖値のトレンドや変動傾向を把握することは難しく、例えば夜間の無自覚低血糖や食後の血糖スパイクを正確に確認できないなどの課題がありました。また、中長期の血糖の推移はHbA1cでも把握できますが、あくまでも平均値を表しているに過ぎず、血糖日内変動の「幅」までは把握できません。

近年登場した持続血糖測定というシステムでは、24時間の血糖変動をトレンド(「点」ではなく「線」)として捉えることができます。上腕に装着したセンサーが、14日間連続して1分毎の血糖(正確には組織間液中のブドウ糖)を測定し、そこにリーダーをかざすだけで15分毎の血糖が表示されるものです。これにより、食事や運動が血糖に及ぼす影響だけでなく、今まで見過ごされていた低血糖なども可視化することができます。こうした血糖の「見える化」は患者の行動変容を促し、治療がより進めやすくなるという効果も期待できます。

今回の改定で、「間歇スキャン式持続血糖測定器によるもの1,250点」が新設されました。「インスリン製剤を1日2回以上使用している」

という縛りはありませんが、非専門医のクリニックに通院する2型糖尿病患者に対しても、センサー2個(1か月)分に相当する診療報酬が算定できますので、経営的にもトントンになったと言えます。



FreeStyle リブレ
右: センサー、左: リーダー
(写真提供: アボットジャパン)



1. 地域連携症例検討会

日時：4月13日（火）19：00～20：15 場所：当院3階 講堂

1) 症例検討（2例）

①『便潜血を契機に発見された早期胃癌の3例』

消化器内科 山田 和俊、水野 秀城、上山本 伸治

②『在宅療養を重視した多部署連携が功を奏したがん終末期症例』

緩和ケア内科 船木 康二郎

2) ミニレクチャー：「眼科検診について ～視神経乳頭陥凹拡大と言われたら～」

眼科 山田 芳博

情報の約8割が眼から入ると言われており、人生100年時代と言われている現代においては、眼疾患の早期発見により視機能が維持されることは、高齢者における転倒防止や認知機能の維持に関しても大変重要であると考えられます。

眼科検診には大きく分けて、小児の検診（3歳児、就学時の検診）と成人の検診（緑内障検診、ドックなどの一般検診）があります。

今回は眼科領域の検診におきまして、頻度の多い所見や当科での検査・診断・経過観察等の現状につき説明させていただきます。

講演の最後に、最近の当科におけるコロナ禍での診療の工夫、現在の手術状況等についても追加でお話させていただきます。予定としております。

予告

日時：5月11日（火）19：00～20：15 当院3階 講堂

内容：①症例検討 2例 （担当）内分泌内科、精神科

②ミニレクチャー （担当）耳鼻いんこう科・頭頸部外科

※定例の研修会、看護研修、衛星研修S-QUE視聴研修

当面の間、開催を中止いたします。

衛星研修S-QUE研修の資料をご希望の方は、ふれあい地域医療センターへご連絡ください。

S-QUE Eナース

○配信期間 4月5日～5月3日 第1回 新型コロナウイルスほか院内での感染対策最前線

○配信期間 4月19日～5月17日 第2回 チームで取り組む医療安全対策シリーズ～患者参加の医療安全

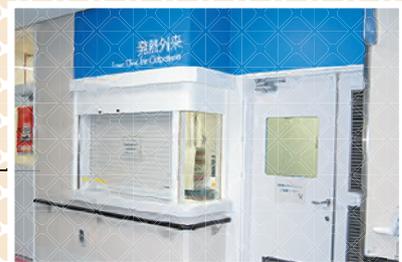
S-QUE 新特別企画

○配信期間 4月1日～5月31日 第48回 看護職のための診療報酬UP講座

発熱外来が院内に 完成しました！

富山市民病院の第一駐車場で開設しておりました発熱外来が、3月8日から院内に移動し、稼働しています。中には、トイレのある診察室もあり、明るく以前より広い診察室となっております。発熱外来へのご紹介のお問合せについては、ふれあい地域医療センターへご連絡ください。

富山市民病院代表TEL 076-422-1112（内線）2989へ
お願いいたします。



検査科から

微生物検査室での 遺伝子検査



臨床検査技師 堀江 妙子

2020年の1月、日本国内で新型コロナウイルスの感染者が初めて確認されたころ、臨床検査科の微生物検査室に初めてPCR検査機器が導入されました。導入目的は、Clostridioides difficileのtoxin B産生遺伝子及び結核菌群遺伝子の早期検出であり、院内における感染拡大防止対策の一環を担うことでした。

2016年にClostridium difficileから学名が変更されたClostridioides difficileは、病原因子としてtoxin A、toxin Bという外毒素を産生します。toxin Bは細胞障害性を持ち、CDI (Clostridioides difficile Infection) を起こすことがあります。CDIは院内感染対策上、重要な感染症ですが、従来のイムノクロマト法でのトキシン検出では

感度が低く、偽陰性となることが多くあります。CDI診療ガイドラインには、GDH陽性・トキシン陰性となった場合、遺伝子検査を行うフローチャートが記載されています。

トキシン遺伝子検査は抗原検査よりも感度が高く、約1時間で結果が出るため、CDIの判定を素早く行うことができます。PCR検査機器導入により、CDI診療や感染対策、適切な抗菌薬使用に有用な検査結果を早期に報告することができるようになりました。

結核菌は遅発育菌であり、分離培養に4~8週かかります。日本はまだまだ結核菌中蔓延国であり、感染対策上、結核菌の早期発見はとても重要です。

抗酸菌塗抹染色で抗酸性に染まる菌が検出されたとき、結核菌と非結核性抗酸菌との鑑別が必要になります。これまでは鑑別のためのPCR検査を外注しており、結果の判明まで1~2日かかりましたが、PCR検査機器を導入することにより、約2時間で結核菌群か否かの判定ができるようになりました。

現在はSARS-CoV-2遺伝子をこの機器で検出できるようになり、今まで以上に感染症における微生物検査室の重要性を意識しています。

医師不在のお知らせ

※外来担当日の休診のみ掲載

4月

| 科名 | 医師名 | 不在日 | 科名 | 医師名 | 不在日 |
|----------|-----|----------|---------------|-----|--------|
| 脳神経外科 | 毛利 | 20日 | 眼科 | 山田 | 19日 |
| 呼吸器・血管外科 | 武内 | 2日 | 耳鼻いんこう科・頭頸部外科 | 児島 | 14日 |
| 皮膚科 | 大村 | 1日、8日 | 歯科口腔外科 | 寺島 | 2日、30日 |
| 小児科 | 和田 | 8日 | | 高橋 | 7日 |
| | 仲岡 | 6日(午前のみ) | | | |

※その他、急に不在となることがありますので、ふれあい地域医療センターまでお問い合わせください。TEL 076-422-1112 (代) 内線2168

編集後記

昨年春、新型コロナウイルスが全国に広がり、緊急事態宣言も発令されました。全国の学校などでは在校生や父兄不在の卒業式や地域の伝統行事である各祭りや各種イベントの中止と異例づくしの1年でありました。また、マスクの高騰やデマの流布、誹謗中傷や医療従事者への差別など悲しい出来事も多い一年でした。

しかし、我々の行動も変わりました。マスクや手洗い、消毒を始め、ソーシャルディスタンス、ビニールカーテン越しで電子マネーでの支払い、学校のオンライン授業化、テレワークなど一昨年には考えられなかったことです。人類は逆境を迎えるたびに進化し発展してきました。

未だ出口が見えぬトンネルで、人々も疲弊していますが、ワクチン接種開始されたここが踏ん張りどころと考え、また笑いあえる日々を待ち望んでいます。

薬剤科 宮田 志生



作：病院ボランティア 篠崎 佳子

「れんけいと支援」に関するお問い合わせは、ふれあい地域医療センターまでご連絡ください。送付を希望されない方はお申し出ください。

TEL 076 (422) 1114 / FAX 076 (422) 1154
メールアドレス fureairenkei@tch.toyama.toyama.jp

ホームページ <http://www.tch.toyama.toyama.jp/> がん何でも相談室：メールアドレス shien@tch.toyama.toyama.jp

